

科目名	クラス	講義区分	科目ナンバリング	曜日	科目名	クラス	講義区分	科目ナンバリング	曜日
国際経済論 I	<春>		ECON2650	月4					

【教員氏名】
モグベル ザファル

【単位数】
2 単位

【授業形態】
『講義』

【講義・演習概要】
現在は「グローバル化の時代」と言われていますが、グローバルな環境では「ヒト・モノ・カネ・技術・情報」が国境にほとんどさまたげられることなく双方向に移動しています。この講義では、グローバルな双方向の動きの中核をなす「モノの移動」（つまり、貿易）に焦点を置き、貿易の歴史、日本の貿易の現状分析、貿易実務、貿易理論の基礎などのテーマを扱います。

【学習（到達）目標】
国際経済論・I では主に下記のテーマについて学び、理解することを目指します：
（1）国際収支論、（2）日本の貿易構造の変遷、（3）経済グローバル化と世界経済の未来像
受講生は国際収支論、国際収支統計の構成、近年の日本の国際収支の傾向、近年の日本の貿易構造について知ることができ、経済グローバル化と世界経済の未来像について自分の考えを述べるようになることができます。

【講義・演習計画】
第1回：国際経済入門： 歴史に見る貿易のダイナミック効果と文明の歩み
第2回：国際経済入門：「ヒト・モノ・カネ・技術・情報」の自由な移動とグローバル化
第3回：国際収支統計の基礎知識： 国際収支表の仕組み
第4回：国際収支と対外資産負債残高： 経常黒字・赤字の処理
第5回：対外純資産の国際比較とその意義： 世界最大の債権国としての日本
第6回：国際収支の発展段階説： 時空を超えた調整
第7回：貿易と経済発展： 自由貿易 vs 保護主義再考
第8回：変わりゆく日本の貿易構造： 1985年以降の輸出構造を検証する
第9回：変わりゆく日本の貿易構造： 1997年以降の輸入構造を検証する
第10回：日本の国際収支： 歴史的観点から見て
第11回：日本の国際収支の最近の動向： 半世紀ぶりの赤字の分析
第12回：国際収支の調整： アプゾープション・アプローチを中心に
第13回：国際収支の調整： 弾力性アプローチを中心に
第14回：マーシャル・ラーナー条件： J-カーブ効果と貿易摩擦の負の遺産
第15回：世界経済の未来像： 地域統合と新ルールの展開

【成績評価の方法】
試験評価：90% その他：10%
① 学期末試験において、国際収支論、日本の貿易構造、経済グローバル化などの達成目標に対応するテーマに関する選択式問題と論述問題を出願します。答案の正解率と論述問題に対して論理的に述べているかに重点をおいて評価します。
② 授業への積極的な参加について評価します。具体的には、授業中に行う2～3回の練習問題の結果で評価します。

【参考文献】
日本貿易会著、「日本貿易の現状、2019」
日本銀行国際局編、「国際収支統計の解説」
毎回資料を配布するので、配布資料の責任ある管理を各人に期待する。

【事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 事後学習 30 時間）】
ミクロ・マクロ経済学の基礎を学習しておくこと。配布資料を正しく管理すること（資料の再配布はしません）。
授業中に配布する練習問題の事後学習が求められます。